

第40回公演「久美・美容室物語」

団長の独り言

11月23日(火)「細かく付ける」

今日の劇団ふあんハウスは、前半部分を細かく細かく稽古した。まず今回の芝居で一番長いシーン6だけど、何度も繰り返し稽古したが、なかなか上手くいかず。それでも根気よく「あの手」「この手」を繰り返し返すと「おお！いい感じ」って芝居が現れた。

どうにか、役の人物の個性を引き出すことに成功したので、次のシーン7、8、9、10、11、12と進めていくと、またしても「おやあ？」ってな芝居を行っている役者達を次々に発見する。

これまでも、前半部分のシーン6から12までの稽古は何度か行っただけで、「おやあ？」ってほどの違和感を感じなかったのだが、今日の稽古では、どうにかして修正してもらいたい箇所が、やたら目についた。

なんだろう？みんな前回も今回も全く同じ芝居をしているのに、

今回は各役者の所作やセリフの言い回し、そして動き等がすごく気になる。

まああれだね。

これまでは、芝居全体がちゃんと流れるのか？どうか？という観点から芝居を見ていたから、多少の違和感ある芝居も大目に(?)

見てきたけれど、「細かくダメを出す」という段階に入ると、これまで気にもしなかった細かな所作やセリフの言い回しなど、いちいち気になり始めたのだろうねえ。

実は先日、とある場所で「いい作品を創るためには妥協をしてはいけない。」っていう事を実感させられた「ある現場」に立ち会わせて頂き、その作品にかかわる全ての皆さんの熱意にもすごく影響され、いい刺激を頂いた私は、「妥協しないで役者と向き合いながら細かい部分でのダメを出し続けよう」って思ったつてのもあり、オーバーアクションでセリフを言う癖のある人には、本人が気抜けるほど抑えた言い方への微妙な変更を求め、コーヒークップの渡し方、飲み方の細かい指示を出し、

さらには別のシーン「喫茶店」でのたわいもない二人の会話のやり取りへのダメを出しまくり・・・等々。

そのまま通り過ぎてても特に気にならないような箇所をも摘み上げ、「あえて」事細かにダメを出した。

派手な動きや抑揚をたっぷり付けたセリフ回し等の芝居の方が、やっっている役者は「演じている感」があつて気持ちいいのかもしれないが、そーゆう芝居って、大抵は相手役とかみ合わなかったり、浮きすぎてストリーが分からなくなる場合がありますね・・・。

いえね、オーバーアクションがダメってわけじゃないのだが、相手とかみ合わなかったり、場面の意図と違った雰囲気じゃべられると、作者として「いえいえ違いますけどねえ」と言いたくなる。

ただねえ・・・こうした事細かなダメ出して、ややもすれば役者に反発心を芽生えさせ、素直に受け入れてもらえない場合もあるので、

この手のダメを出す際は細心の注意を払い、気を使いながら、説得力のあるダメ出しを心掛けるようにはしている。

その成果が現れたのかどうなのか？本番までまだ2か月以上あるけれど、抜き稽古を終えて、一か八か前半部分を通してみたら！

面白い！！

あつ！すみません・・・

作者が言うのも、おこがましいとでもいいますか、「謙虚さがないのかあ！」とお叱りと呆れのお言葉を頂戴しそうですねえ！オープニングから各役者は台本を外し始めていて、登場する二人のセリフのやり取りがとってもリズムカルで心地よく、どんな二人の会話に惹きつけられる。さすがに大勢が登場する前半部分の最後のほうは、ちよいと中だるみしてしまっただけれど、強引に通してみた前半の完成度の高さに驚き、期待に胸膨らむ今日の稽古でした。